

しなくなってしまうわけで、私の思いも相当なものがありません。

こういう新しいことに取り組んだ場合、評価は分かれるところですが、その結果がこれから形として出てくるわけですが、バイオマスタウン構想をあの時期によく策定して、限られたマンパワーの中でよくやったと、近い将来必ず市民の皆さんに、喜んでいただけるもの、あるいは理解していただけるもの、と信じています。

通学路のさらなる安全対策

Q 昨年、加西市内にあって12件の不審者の出没がありました。広島的事件では学校から自宅まで1.3km、栃木県の事件では2km、いずれも遠い。加西市には2km、3kmというのはざらにあると思いますが、そういう対策がまず一番だと思います。まず一人になる児童・生徒の護衛をどうするか。登校時にはワッショイスクールだとか、いろいろな人々が応援して、交通指導等も非常に円滑にいくわけです。

が、帰るときにはそういう人たちが多忙を極めていない。どのようにして遠路通学路を帰る子どもたちを守っていくのか。

A 通学路でY字路以後一人になってしまふときは必ず出てくる。このところはだれがというの、大変難しい。例えばボランティア的に、あるいは親が、あるいは学校が、いろいろ担当が考えられるが、これも市民的に協議を経た上で考えます。後は、スクールバスということもそろそろ本格的に検討しなければならぬ時期に来ていると思います。のどかさ是非常に大切ですが、備えていくということをしつかり見据えていくならば、財政をにらみながら考えなければならぬ段階と深刻に受けとめています。

産後ヘルパー制度について

Q 核家族化が一段と進む中で、出産後間もない時期の母親は体調も思わしくなく不安でいっぱい。育児や家事の負担から育児ノイローゼとなる母親が見られ

るようです。こうした、昼間赤ちゃんを2人だけのお母さんを援助するため、産後ヘルパー事業が導入できないものか。

A 産後ヘルパー制度は新しい子育て支援サービスとして最近全国各市で取り組まれています。この制度は、出産直後でお母さんの体力が戻っていないご家庭に産後支援ヘルパーが訪問し、お母さんやお子様の身の回りの世話をすることで、育児だけでなく家事なども依頼できます。サービス内容として、授乳、沐浴、おむつ交換、食事準備、洗濯、掃除などがあります。加西市でも核家族が進み、相談する人もなく、子育てに不安や悩みを抱いてお母さん方がおられますので、検討すべき支援サービスと考えています。具体的には加西市シルバー人材センターがヘルパー制度を掌握するために、先進地の視察を行っておられます。今後は、加西市シルバー人材センターへお願いするということで検討してまいりたいと考えています。

特別指定区域

Q 調整区域、農振地区内の宅地化と加西市都市計画マスタープランについて、農振除外に1年、加西市都市計画審議会、県開発審議会に1年かかる。これを何とか短縮できないか。

A 特別指定区域の作業は、現在市街化調整区域全域で、市の土地利用計画、地縁者の住宅区域などの指定区域の素案の作成中です。現在までは、予定どおり進捗しています。

素案の作成ができますと、2月上旬に関係自治会全員に全体説明をし、2月中旬から3月中旬にかけて1町1町すべて関係自治会への素案の説明を予定します。それから、自治会ごとに意見を取りまとめ、市へ提出していただき、地元意見を調整した後、素案が固まれば自治会からの申し出により都市計画審議会へ諮った上で県へ事前協議を提出し、調整後、県へ事前協議書を提出しますが、その後県の

民間委託と施設の統廃合

Q 今後施設・業務の民間委託、施設の統廃合を具体的にどのように行うとしているか。

A 加西市財政再建推進計画において施設の統廃合、民間委託は、重点項目として規定されています。具体的には、賀茂幼稚園の創設による効率化、それと病院の物品代行管理の委託の実施、それとゴミ収集のうち缶、ペットボトル等の収集業務の委託とさらなる収集業務の委託の検討、それと上下水道事料金収納業務の民間公募など、順次にできるものから民間委託、統廃合を実施しています。